

JAの活動報告書 2023

ACTIVITY REPORT OF JA GROUP HIROSHIMA

令和5年4月～令和6年3月

持続可能な
農業・地域共生社会の
未来づくり

不断の自己改革による
さらなる進化

第29回
JA 広島県大会の
テーマ

持続可能な農業・地域共生社会の未来づくり ～不断の自己改革によるさらなる進化～

JAグループ広島をめざす姿(10年後)

持続可能な
農業の実現

豊かでくらしやすい
地域共生社会の実現

協同組合としての
役割発揮

3つの基本目標

「農業者の所得増大」

「農業生産の拡大」

「地域の活性化」

組合員との対話運動を通じた不断の自己改革の実践(すべての重点取組事項を包括)

組合員との対話を通じた自己改革実践サイクルの構築・実践

1 持続可能な食料・農業生産の確立

1. 農業者と共有する所得向上目標及び販売品取扱高目標の設定
2. 県域における実施計画
3. JA 営農振興計画の策定
4. JA 営農振興施策の展開

2 持続可能な地域・組織・事業基盤の確立

1. 組合員の「アクティブ・メンバーシップ」の確立
2. 青壮年組織・女性組織のメンバーシップ強化
3. 生活インフラ機能の発揮と多様な連携強化による地域活性化への貢献

3 不断の自己改革の実践を支える経営基盤の強化

1. 持続可能な経営基盤の確立・強化
2. ガバナンス・内部統制の確立と経営の健全性確保

4 協同組合としての役割発揮を支える人づくり

1. 協同組合らしい人づくり
2. 組織基盤の確立に向けた人づくり
3. 経営基盤の強化に向けた人づくり

5 「食」「農」「地域」「JA」にかかる県民理解の醸成

1. 「食」「農」「地域」とこれらを支える「JA」にかかる県民理解の醸成
2. 「JA グループ広島統一広報戦略」に基づく JA グループ広島が一体となった情報発信の強化

…重点実施事項

取り巻く 環境変化

人口減少・高齢化

正組合員の減少

協同組合意識の希薄化

コロナ禍による
価値観・行動変容

地域社会存続への
危機感

早期警戒制度の見直し

農地の減少

基幹的農業従事者の
減少

食料・農業・農村
基本計画への対応

自然災害の激甚化

持続可能な社会実現
への要請

劇的に拡大する
デジタル化

はじめに

JA グループ広島は、第 29 回 JA 広島県大会（令和 3 年 11 月）において、今後 3 年間の県域取り組みとして、10 年後を見通した JA グループ広島のめざす姿である「持続可能な農業の実現」、「豊かでくらしやすい地域共生社会の実現」、「協同組合としての役割発揮」を決議しました。

そして、「めざす姿」の実現に向けて、「3 つの基本目標（農業者の所得増大・農業生産の拡大・地域の活性化）」を設定し、組合員とともに不断の自己改革に取り組んでいます。

自己改革の取り組み実践から 8 年目を迎え、3 つの基本目標のもと、各組織で地域の農業・くらしの姿や組合員等のニーズにあわせた特色ある自己改革の実践に全力で取り組み、多くの実績・成果が積みあがっています。

本冊子では、そうした JA グループ広島の自己改革の取り組み事例をまとめました。

今後も、3 つの基本目標の達成に向けて、組合員との対話運動を通じた不断の自己改革を実践し、「めざす姿」の実現に取り組んでまいります。



■ JAグループ広島の取り組み 3

■ 「農業者の所得増大」への取り組み

[JA広島市]	資材高騰に伴う支援策の実施	12
[JAひろしま]	広域合併で地域枠を超えた出荷体制の構築	12
[JAひろしま]	生産資材の価格低減 「JAひろしまオリジナルチップソー」で組合員へ還元	13
[JA尾道市]	産直市「ええじゃん尾道」尾道店でええじゃんフェアを開催	13
[JA福山市]	FUKUYAMA ふくふく市・ふれあい市による産直強化 農畜産物の販売チャネル拡大	14
[JA広島信連]	担い手コンサルティング実施	14
[JA広島信連]	農業補助金セミナー	15
[JA広島中央会]	農業経営者セミナー	15

■ 「農業生産の拡大」への取り組み

[JA広島市]	主要品目野菜の売上増加	18
[JAひろしま]	情勢つなぎ需要掘り起こす 市場内に事務所を開所	18
[JA広島ゆたか]	生産基盤の維持・拡大	19
[JA広島ゆたか]	農作業支援への取り組み	19
[JA尾道市]	管内町内会等ヘイノシシ捕獲器の寄贈	20
[JA福山市]	農業塾の開催による様々な担い手の育成支援	20
[JA福山市]	福山大学との共同研究によるクワイ掘り取り機の開発と クワイ6次産品化の新たなメニューとして「くわいケーキ」の開発	21
[JA広島信連]	農業生産の拡大等に向けたビジネスマッチング	21
[JA全農ひろしま]	耕畜連携・資源循環ブランド「3-R」 ブランド展開拡大に向けた取り組み	22

■ 「地域の活性化」への取り組み

[JA広島市]	安佐南区海外援助米生産事業	24
[JAひろしま]	地域を元気に! 「支店ふれあい委員会」の設置拡大	24
[JA尾道市]	管内幼稚園・保育園・小学校の児童へ農業体験を実施	25
[JA福山市]	JA福山市あぐりスクールの開催による食農教育の実施	25
[JA福山市]	クワイ栽培に関する出前授業	26
[JA広島信連]	食農教育プロジェクト「起農みらい塾」	26
[JA共済連広島]	自転車交通安全教室	27
[JA広島中央会]	広島こども食堂支援	27
[JA広島中央会]	バケツ稲づくりを通じた食農教育 (第3回 JA グループ広島バケツ稲づくりInstagramキャンペーン)	28
[JA広島中央会]	JA共済 Presents すくすく夢フェスタ	28

組合員との対話運動を通じた不断の自己改革の実践

JAは、組合員との対話を通じて自己改革の取り組みにかかる組合員の評価や意向を把握し、取り組み施策を点検・見直ししたうえで、必要な実践方策を「自己改革工程表」として策定しています。

そして、自己改革の実践・進捗管理を行う「自己改革実践サイクル」を通じて、自己改革の更なる深化・発展に向けて取り組んでいます。

県内JAの自己改革の実践状況（～自己改革工程表より～）

- ▶JAでは自己改革工程表（令和4年度～令和6年度）で3年間の目標を決定し、設定した取り組み事項についてKPI（※）達成に向けて取り組んでいます。
（※）KPI（重点業績評価指標）：達成すべき成果目標のこと
- ▶3つの基本目標（農業者の所得増大・農業生産の拡大・地域の活性化）にかかる令和4年度の取り組み結果は次のとおりです（被合併JAを含む13JA）。
- ▶令和4年度策定の「自己改革工程表」の点検・見直しを踏まえ、令和5年総代会で決議した自己改革工程表に掲げる取り組みに基づき、引き続き「3つの基本目標」の達成に向け、総力を挙げて取り組んでいきます。

●農業者の所得増大・農業生産の拡大

取組項目	取組項目数	取り組み事例	KPI達成項目数	
			100%達成	90%達成
販売体制強化	10	主要品目の販売高増加	8	10
		産直市の利用者増加		
		農産物の高付加価値化		
面積・収量増加、品目転換	10	付加価値品目の生産拡大	2	7
		特産品の生産拡大		
品質向上	2	高品質化に資する資材の活用	1	1
		主力品目の秀品率向上		
担い手育成	4	新規就農者の育成	1	1
		産直市への出荷者の増加		
資材価格の引き下げ	17	予約肥料等の取扱拡大	13	15
		生産資材のコスト削減		
農作業効率化	3	農作業受託による省力化	2	2
		労力コスト削減		

●地域の活性化

取組項目	取組項目数	取り組み事例	KPI達成項目数
ふれあいの場の確保	2	農業祭等の開催	1
		支店協同活動の実施	
農業振興の応援団拡大	1	農業塾の開催	0
訪問活動による意識づけ	1	訪問活動等によるアクティブメンバーシップの確立	1

持続可能な食料・農業生産の確立

中長期的に人口減少や少子高齢化がすすみ、農業者・農地の問題など農業生産基盤の弱体化が懸念されるなか、食料安全保障や食料自給率向上への関心の高まりをふまえて、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として持続可能な「食料・農業生産の確立」に取り組んでいます。

広島県農業の次世代の担い手確保と、農業従事を継続できる環境づくり

●JA グループ広島・行政・農業関係機関の連携強化による「持続可能な農業」の実現

JA グループ広島および県行政・県域農業関係機関で設置した「元気な広島県農業戦略会議」にて「令和5年度広島県農業振興大会」を開催しました。

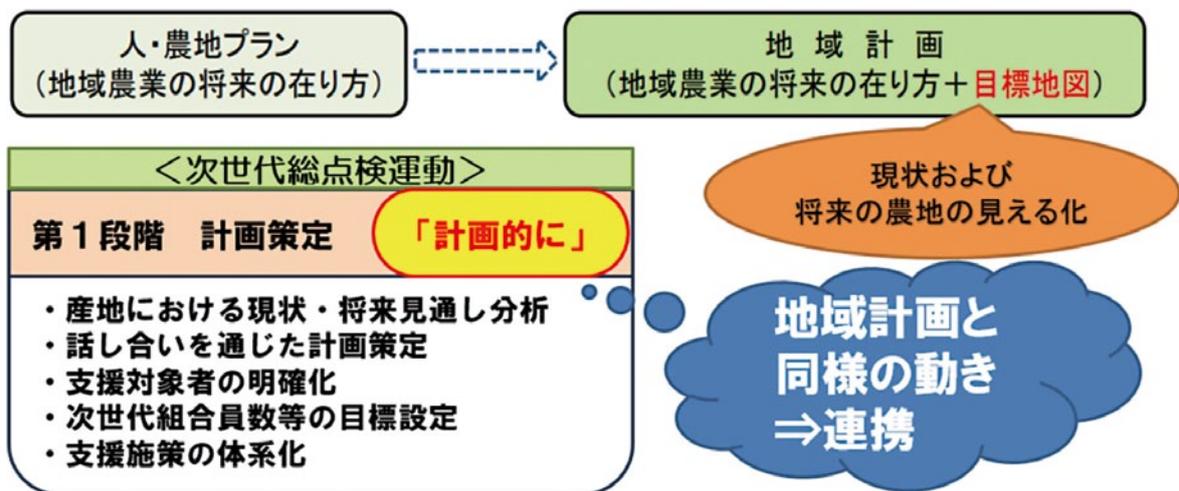
JA グループ広島においては、地域農業の現状把握と事業承継や新規就農育成・確保の支援により、将来の担い手を計画的かつ確実に創出することをめざす「次世代総点検運動」の取り組みをすすめています。

市町関係機関では、高齢化や人手不足などで農地の集約が課題となるなか、農地利用の将来像を描く「地域計画」の策定に向け、取り組みがすすめられています。

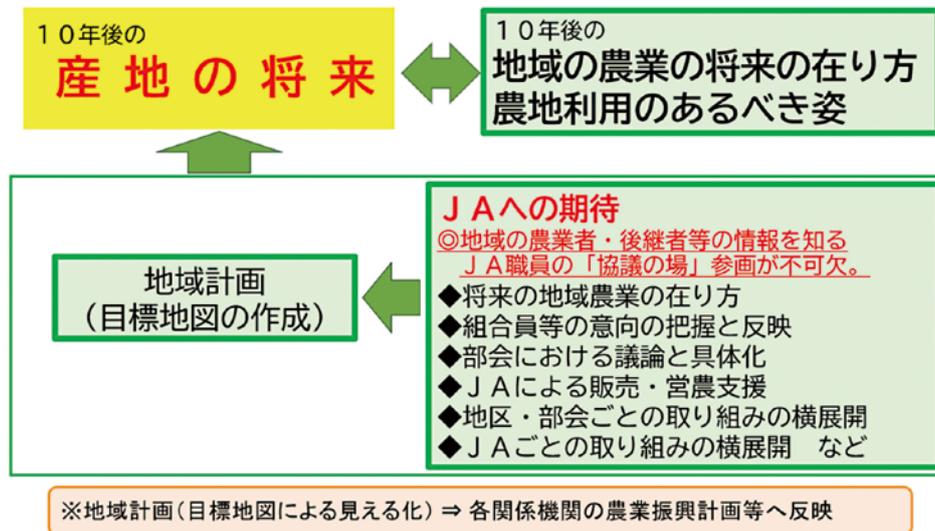
本大会は、JA グループ広島と県市町等関係機関が、「農業の持続可能性の確保」につながる上記取り組みの連携をより強化し、関係団体が一致団結して広島県農業の課題解決に向けた取り組みをすすめていくことを目指して開催しました。

今後は、JA グループ広島および県行政・県域農業関係機関との相互連携をより強化のうえ、新規就農育成対策や労働力確保対策、農地集積などの具体的な広島県農業の課題解決につなげていきます。

▼連携イメージ図



「地域計画」策定におけるJAへの期待

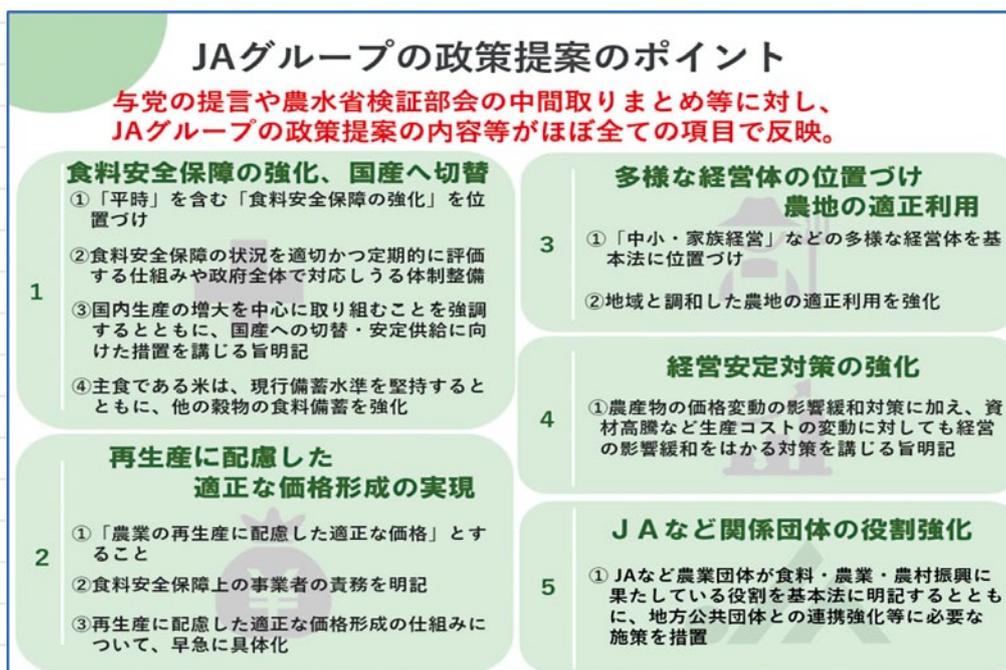


持続可能な農業の実現

●組合員等の声を政策に反映させる取り組み

「食料・農業・農村基本法」の改正議論がすすめられており、政府・与党並びに県や県議会等に対する要請活動や関係機関、マスコミなどの関係先との対話をすすめ、JAグループからの政策提案の内容等が、与党の提言や農水省検証部会の中間取りまとめ等に、ほぼ全ての項目で反映されました。

引き続き、広島県の実態に即した農業・地域政策を実現していくことを基本に、「平時からの食料安全保障の強化」や「再生産に配慮した適正な価格形成の仕組みの具体化」などとあわせ、関係省庁横断的な地域政策の実現に向けた働きかけ、効果的な要請活動や関係先との対話の強化をすすめていきます。



持続可能な地域・組織・事業基盤の確立

多様な組合員・地域住民との対話を徹底し、アクティブ・メンバーシップを構築することで、地域・組織を活性化し、持続可能な「地域・組織・事業基盤の確立」に取り組んでいます。

組合員アンケートの実施と研修会

JA グループ広島では、客観的な事実に基づく組合員の実態把握と共通認識づくりを行い、JA および県域としてのアクティブ・メンバーシップの確立に向けた組織基盤強化施策を立案することを目的に全 JA でメンバーシップ（以下 MS）アンケートを実施しました。

5JA の組合員から無作為に抽出した正組合員 4,100 人と准組合員 10,000 人にアンケートを配布し、5,044 人の組合員から回答をいただきました。

MS アンケートの結果については、県域、JA 毎で分析を行い、今後の組織運営や事業活動に繋げていきます。

支店協同活動コンクール

JA グループ広島では、組合員のアクティブ・メンバーシップ強化の手段として、支店等を拠点とした支店協同活動が重要となっていることから、JA での取り組みを共有し、JA グループ広島における支店協同活動の実施・展開の拡大と、JA 組織基盤強化に繋げるため支店協同活動コンクールを開催しました。

最優秀賞には、JA ひろしま三次地域本部三次北支店が輝き、JA 全中が開催する広報大賞「地域密着型広報活動の部」に推薦しました。引き続き組合員のアクティブ・メンバーシップ強化の支援に取り組めます。



▲最優秀賞 JA ひろしま三次地域本部三次北支店の発表の様子



女性運営参画促進に向けた取り組み（女性役員研修会、理事研修会）

JAの組織・事業・経営への運営参画にあたり、多様な視点による経済社会の向上が求められる中、女性の視点を活かした運営参画の向上を目指し、諸情勢の把握や他県の実例を学ぶとともに、参加者相互の意見交換を行うことで、JA女性役員としての一層の役割発揮に資するため、女性役員研修会を開催しました。

JA、中央会の女性役員13人が参加し、「女性参画センターの取り組み」と題し、JA松本ハイランドの大島 澄子理事に講演いただくなど、女性参画に向けて学びを深めました。そのほか、理事研修会でも、女性登用の取組事例と推進ポイントについて理解を深めました。



▲課題等について意見交換を行う女性役員

女性組織間での連携強化

JA広島県女性組織協議会（県女性協）は、女性組織間でのより一層の連携強化と地域活性化に向けての女性の役割を明確化するために、農業委員会ウーマンネット広島の女性役員との意見交換会を開きました。

意見交換会では、両組織の活動状況と課題の共有、今後共に取り組みたい活動について話し合いました。

今後も、地域活性化に向けて、両組織の強みを活かしながら、女性組織が連携しながら活動を展開していきます。



▲意見交換会に参加した県女性協のみなさん

地域共生社会づくりに向けた県内の協同組合の連携

県内の協同組合で構成する広島県協同組合連絡協議会（HJC）では、さまざまな地域課題の解決に向け、令和5年度の重点取り組み課題としている海ゴミ問題についての学びを深め、今後の活動につなげるため、学習会を開催しました。

学習会では、プラスチック汚染問題についての映画「マイクロプラスチック・ストーリー～ぼくらが作る2050年～」を鑑賞し、環境活動家の武本匡弘氏の海洋環境の報告、プラスチックフリー製品の紹介等を通じて、私たちが日常生活で取り組むことを話し合いました。

また、2025年を2回目の国際協同組合年とすることを国連が宣言したことをふまえ、令和6年度のHJCが取り組む地域活動についても協議しました。

今後も、よりよい社会づくりに貢献するため、協同組合間連携を強化して活動を展開していきます。



マイクロプラスチックストーリー ぼくらが作る2050年 チラシ▶

「食」「農」「地域」「JA」にかかる県民理解の醸成

食と農、地域を支える組織としての JA に対する、県民や幅広い関係者の理解と共感を得て、「食」「農」「地域」これらを支える「JA」にかかる県民理解の醸成に取り組んでいます。

「G7 広島サミット」を契機とした広島県産農畜産物の消費拡大・理解促進に向けた広報活動

「地産地消」への行動変容や農畜産物への価格転嫁、「G7 広島サミット」を契機とした県産農畜産物の消費拡大・理解促進に向けて、SNS（インスタ・YouTube）や新聞広告など情報発信に取り組みました。

登録者数 17 万人の農林水産省公式 YouTube「BUZZMAFF」と一緒に広島県産の農畜産物を PR する動画「G7 広島サミットを盛りあげよう」を制作しました。

JA グループ広島「地産地消」デリシャス大使の声優 Machico さんと日本初の国家公務員ユーチューバーとして注目を集めていた農林水産省広報室職員（当時）白石優生さんが出演し、3.3 万回視聴（令和 6 年 2 月末現在）されています。

また、「G7 広島サミット」開催初日に、中国新聞に広告を掲載し、「歓迎」及び「地産地消」を PR しました。

さらには、G7 サミットで使用された県産農畜産物を Machico さんが紹介する 60 秒程度の YouTube 動画を 8 本制作し、約 4 万回視聴（令和 6 年 2 月末現在）されています（予告動画は 44 万回視聴（令和 6 年 2 月末現在））。



▲Machico さんと白石さんによる特別コラボ動画の様子



▲中国新聞広告（令和 5 年 5 月 19 日掲載）



JA グループ広島 YouTube

「国消国産」の日を基点とした国消国産月間（10・11 月）に行動変容を促す取り組みを重点的に展開

●中国新聞広告掲載

令和 5 年 10 月 16 日の「国消国産の日」に「地産地消」の理解醸成に向けてカラー 15 段広告を中国新聞に掲載しました。



中国新聞広告 ▶
（令和 5 年 10 月 16 日掲載）

●「地産地消」PR ミニ番組放送

国消国産の日の翌日 10月17日にお笑い芸人「コットン」の西村真二さん（広島市出身）とJAグループ広島「地産地消」デリシャス大使 Machico さんによる「地産地消」応援ミニ番組を放送しました。



▲「地産地消」PR ミニ番組の収録の様子

●ひろしまフードフェスティバルで「地産地消」PR

令和5年10月28日、29日に「ひろしまフードフェスティバル」が開催され、延べ148,000人が来場しました。JAグループ広島は「地産地消」を大きなテーマに、JA全農ひろしまによる産直市などJAならではの食の展覧、未来の農業や食を支える学生の活躍の場として、高校生の出展、「地産地消」「国消国産」「価格転嫁」の3点を分かりやすく伝えるプログラムとして、お笑い芸人を起用したJAグループ広島オリジナル漫才、生産量日本一の広島レモンを使用した体験イベントなどを実施しました。



▲広島レモンを使用したレモンティー作り体験の様子



▲広島県出身のお笑いコンビ「フロントライン」による「地産地消まんざい」の様子

「農業者の所得増大」 への取り組み

「農業者の所得増大」に向け、担い手の
経営力向上や販路拡大等、様々な切り
口から取り組みを展開しています。



農業補助金セミナー (JA 広島信連)



「JA ひろしまオリジナルチップソー」(JA ひろしま)



ええじゃんフェアを開催 (JA 尾道市)

資材高騰に伴う支援策の実施



農業に関する生産資材の価格が高止まりをしていることに伴い、組合員の方々の農業経営対策として令和5年度においてもJA広島市の購買事業の利用者に対して供給高に応じた支援を実施した。

(助成対象期間：令和5年4月1日～令和6年3月31日)

成果

肥料・農薬・出荷用袋・出荷用ダンボール

供給額(税込)の9% 支援
飼料供給額(税込)の2% 支援

支援見込額 **6,810万円**

今後の展開

令和5年度の支援金を令和6年7月に
対象口座に振り込む。



組合員等の評価

- 厳しい経営状況だが、支援策は助かる。
- 今後もどうにかして農業を続けていきたい。

広域合併で地域枠を超えた出荷体制の構築



直営する直売所14店舗のうち7店舗において出荷要件を緩和し、地域の枠を超えて出荷できる体制を構築した。多様な農家組合員の結集と地域特性を生かした品揃えの充実等により「売れる店舗づくり」を展開し、農業者の所得増大と農業生産の拡大を目指す。併せて、合併メリットを生かした販売方法や新たな出荷者の掘り起こしに取り組んでいる。



成果

地域本部域を超えた出荷登録者数及び出荷額
(10月1日～12月末現在)

● **16名** ● **950,490円**

今後の展開

直売所全店舗で地域の枠を超えた出荷体制を目指すとともに、商品の偏り防止や品揃えの充実などにより、農業生産の拡大と出荷者の所得向上を目指す。



組合員等の評価

- 切花の量が増えていた、引き続き果物類も増えることを期待している。
- 出荷先が増えたことで、栽培効率を考えた品目で取り組んでいける。

生産資材の価格低減「JAひろしまオリジナルチップソー」で組合員へ還元

12 つくば農業
つくば農産

資材価格の高騰が続く中、生産資材の大量仕入れと大量販売が可能となった広域合併JAのスケールメリットを生かし、良質で安価な刈り払い機用のチップソー「オリジナルチップソー」と「WPチップソー」を販売した。

組合員・利用者からの要望の強い生産資材の価格低減を実現し、農家所得の増大に取り組んだ。



成果

資材価格の高騰（高止まり）が続く中で、スケールメリットを生かして、同程度の商品と比較して資材価格の低減（価格上昇の抑制）を実現することができた。

今後の展開

農家所得の増大に向け、関係機関との連携強化で、スケールメリットを生かした品目の拡大や配送コスト軽減に努めていく。



組合員等の評価

「オリジナルチップソーの使い勝手が良い」、「WPチップソー（5枚組）はお得感があり買いやすい」と好評。

産直市「ええじゃん尾道」尾道店でええじゃんフェアを開催



産直市「ええじゃん尾道」尾道店で、日頃の感謝を込めて産直祭を開催した。店舗内外に支店、営農センター、全農、共済連、信連と連携し様々なブースを設置し、来客数を伸ばすことで農業者の所得増大や出荷者の増加による農業生産の拡大を実現した。

成果

	4年度12月末	5年度12月末
売上	9億6,587万円	10億5,475万円
来店者数	384,246人	401,209人
出荷会員	883人（※令和4年3月末現在）	926人

今後の展開

新鮮で安心安全な農畜産物や加工品等の販売を通じて、農業者の所得向上や、新規出荷会員の増加による農業生産の拡大を目指す。



組合員等の評価

- 地元の新鮮な農産物が沢山並んでおり、いつも利用している。
- 来店数が多く、自分で価格を決めて販売できるのでやる気にもつながっている。

FUKUYAMAふくふく市・ふれあい市による産直強化 農畜産物の販売チャネル拡大



FUKUYAMA ふくふく市と6カ所のふれあい市において、広く消費者に地元農産物をPRし、地産地消の推進と農業者の所得増大を図った。また、ネットショッピングで、特産のクワイ・ぶどう等の販売強化に取り組んだ。そして、地域に密着した直売所として、食料・農業・JAに対する理解促進を展開した。5月には、JA ふれあい祭(福山ばら祭 2023 協賛イベント)を開催し、会場では産直市による新鮮な農産物の販売やSDGsの取り組み紹介等を行った。さらに、FUKUYAMA ふくふく市では、売れ残り品を、生産者の理解のもと、フードバンクへ無償提供する取り組みを昨年に続き実施した。



成果

販売事業(産直)売上実績

5億2,704万円(税別) → 5億5,655万円(税別)
(令和4年12月末現在) (令和5年12月末現在)

前年同期対比: 105.5%

今後の展開

引き続き、新鮮で安全・安心な農産物や加工品などの販売を通じて、管内農産物の消費拡大と農業者所得の向上を目指す。



組合員等の評価

- ふくふく市によく行くが、新鮮な野菜が色々揃っていて、いつも楽しみにしている。弁当も色々あってどれも大変おいしい。
- 神石の有機野菜コーナーができて嬉しい。
- 農家の方に会えて安心して食べれる。

担い手コンサルティング実施



【営業部門】農業専門金融機関として、農業者の経営安定・成長促進を目的に、部門別収支分析等の財務分析をはじめ、担い手からのヒアリング等により経営課題を見える化し、課題解決に向けた解決策を提案している。

【JAバンク部門】担い手の経営課題を可視化し、JA信用事業と営農・経済事業等と連携して、可能な限り他の地域金融機関とは異なる総合事業体ならではの解決策を提案することで担い手の成長(=農業所得増大)とJA総合事業の伸長を両立することを支援している。

成果

【営業部門】2先の担い手に対して、コンサルティングを実施(令和4年度から1先増加)。新たな販路(卸売会社)との商談の場を設ける等、担い手の農産物販路拡大支援等を実施した。

【JAバンク部門】JA 担い手コンサル実践チームを中心に、信連もJA 担い手コンサル実践支援チームを組成し、各担い手と3~5回程度の打合せを実施。実態把握と課題の洗い出し(経営分析等)を実施し解決策の策定・提案を行った。

提案事例としては、農産物のブランド戦略策定、労働力確保策の提案、年間生産計画書の策定等を行った。

今後の展開

【営業部門】農業者との対話を通じた課題のヒアリングおよび解決策の提案等に引き続き取り組む予定。

【JAバンク部門】経営の成長・安定のビジョンを持つ担い手に対し、継続して実施を検討。



組合員等の評価

- 【営業部門】●「現在の経営状況を見える化してもらったことにより、客観的・多面的な分析ができた」、「分析結果の詳細もしっかり説明してもらえた」等の評価をいただいた。
- 「自経営の課題や良好な事業内容等、詳細がわかって良かった」、「今後は関係機関との情報共有が必要だと思った」等の評価をいただいた。
- 【JAバンク部門】●取組みが完了した担い手からは、「課題も含めた経営全体の見える化ができた」といった評価をいただいた。



農業補助金セミナー

広島県、行政書士事務所等と連携し、農業者が活用可能な補助金にかかるセミナーを開催。補助金概要のほか、申請方法やノウハウについても理解してもらえるような内容とした。



成果

農業者 **14 先**、行政等 **6 先** が参加。
セミナー後、相談が **3 件** あった
(補助金以外の相談含む)。

今後の展開

セミナー内容の変更等を検討のうえ、
継続して実施を検討。



組合員等の評価

●農業者 14 先中、説明した補助金を今後検討したいと前向きに回答された方が多数おり、情報が充実し価値ある内容であったとの好評を得た。



農業経営者セミナー

令和 5 年 12 月～令和 6 年 1 月までの間、農業経営者およびその従業員、JA 担い手支援担当者等を対象に「経営戦略」、「マーケティング論」、「財務会計分析」、「人的資源管理(労務管理・事業承継)」のセミナーを開催した。

農業経営者における様々な経営課題をサポートすることにより、農業経営者の生産意欲の向上を図り、JA グループの自己改革の最重点実施事項の 1 つである農業者の所得増大・農業生産の拡大に繋げる具体的な取り組みとして実施した。

成果

参加者人数
令和4年度 **63名 (4テーマ4回)**

令和5年度 **77名 (4テーマ4回)**

今後の展開

セミナー受講者の声などを踏まえ、実施について検討。

組合員等の評価

●経営戦略における事例紹介や、税制改正対応、事業承継に向けた心構え等、参加者のニーズに応えたセミナー内容であったため、大変好評をいただいた。

「農業生産の拡大」 への取り組み

「農業生産の拡大」に向け、栽培技術の高度化等による安定生産、販売関係者等との連携強化による消費者ニーズ把握、新規就農者の育成による担い手増加等の取り組みを展開しています。





主要品目野菜の売上増加

こまつなについては、加工用出荷の増加と安定価格での契約販売量の増加、トマトについては生産量の確保と取扱高の増加、えだまめについては晩生の品種を利用した栽培計画提案などに取り組んだ。



成果

令和5年度実績(目標)※実績は1月末現在

こまつな 3億5,900万円 (3億8,000万円)

トマト 1億7,700万円 (1億5,000万円)

えだまめ 7,100万円 (9,000万円)

今後の展開

引続き、新たな販路拡大や既存取引の拡大に取り組む。



組合員等の評価

●自分が作ったものが商品化され、生産の意欲、活力につながる。



情勢つなぎ需要掘り起こす 市場内に事務所を開所

広域合併で管内に多種多様な農産物を持つJAの特性を生かし、県内産需要を掘り起こしながら、市場情勢を産地につなぎ、多彩な園芸品目の有利販売による農業者の所得増大を目的に、中四国地方の拠点市場である広島市中央卸売市場内に事務所を開所した。

専任担当者が、市場や青果・花き卸売などの関係者と連携を強化し、実需者らに産地や栽培の情報、生産者の思いなどをタイムリーに提供するとともに、他産地の出荷状況や消費動向などを情報収集し、新たな販路開拓に取り組んだ。

成果

- 事務所の設置と専任担当者の配置により、市場関係者および仲卸業者と相互に情報を共有し、農産物の有利販売に向け、主用品目を中心に13件の新規契約や契約更新に繋がった。
- 市場からタイムリーに野菜、果物、花き等の改善要望等を管内の産地や販売担当者へ繋ぐことで、有利販売に寄与。
- 各生産部会等の市場見学および研修会を、令和6年1月末現在で3件実施し、産地と市場とを繋ぐパイプ役としての役割も発揮。

今後の展開

島しょ部から中山間地域までの広域な管内で栽培される農産物のリレー出荷を進めるとともに、販売を一手に担う販売企画室によるマーケットインで消費者や実需者に魅力ある農産物の販売拡大を進める。



組合員等の評価

- 「市場の求めている野菜や果物、花きの規格や出荷形態等の情報がすぐに分かるのは、ありがたい。」
- 「今までは、作物を収穫した後から販売していたので、野菜を植えた時点で販売先が見えるのは生産者としては安心できる。」と好評。



生産基盤の維持・拡大

いしじ温州みかんやレモンの生産拡大を目標に掲げ、現地講習会等の機会を通じて指導・啓発にあたり、苗木の供給等を行うことで、生産基盤（大長ブランド）の維持・拡大の推進に取り組んでいる。

成果	苗木供給		
	令和4年度	(1年生苗) 5,092本	(2年生苗) 4,113本
	9,255本	↓	↓
	令和5年度 (追加販売)	7,819本	4,113本
		↓	↓
		3,706本	

今後の展開

これからニーズが高まるであろう柑橘の品種を見極め、大長ブランドの活性化に繋げていく。



組合員等の評価

● 営農指導による安定した品質と有利販売への取り組み等に評価をいただいている。



農作業支援への取り組み

農家生産者が繁忙期の労働力不足等により一時的に作業ができなくなることで、耕作放棄につながる園地に対して、当JAが農作業支援を行うことで、農家生産者の短期的な労働力不足を穴埋めし、生産維持に取り組んでいる。

成果	農作業支援事業	
	令和4年度	支援農家数17戸
	↓	↓
	令和5年度	支援農家数19戸に増加 (令和6年1月現在)

今後の展開

農家生産者からの依頼が増えても、対応できる態勢を整備していく。



組合員等の評価

● リピーターも増えて、一定の評価を得ている。



管内町内会等ヘイノシシ捕獲器の寄贈

管内生産者にとって深刻な問題となっている鳥獣被害の防止に役立ててもらうために、町内会等ヘイノシシ捕獲器を寄贈し、生産者の営農意欲の低下や耕作放棄地の増大を防止する。

成果

令和4年度寄贈数 **4団体 14基 寄贈**



令和5年度寄贈数 **9団体 30基 寄贈**

今後の展開

今後も管内団体との対話を交え、希望された団体への寄贈を検討する



組合員等の評価

●寄贈いただいた捕獲器を使用し、イノシシが大量に捕獲でき役に立っている。農作物の被害が減少した。



農業塾の開催による様々な担い手の育成支援

管内8グリーンセンターで農業塾を開催し、多様な担い手への幅広い農業技術の習得とJAの直売所などへの出荷者を育成した。また、栽培技術の向上と地域資源の活用を進め地域農業の活性化に努めた。

成果

●農業塾生数およびふれあい市、ふくふく市新規出荷者の育成

令和4年度 **8会場 塾生 216名 新規出荷者 33名**



令和5年度 **8会場 塾生 202名 新規出荷者 44名**

(令和5年12月末現在)

今後の展開

多様な担い手の育成支援を行うため、今後も継続して取り組む。



組合員等の評価

●土壌づくりの重要性、施肥のタイミングや使用農薬のアドバイスなど大変参考となった。

福山大学との共同研究によるクワイ掘り取り機の開発とクワイ6次産品化の新たなメニューとして「くわいケーキ」の開発



福山市が生産量日本一を誇るクワイは、2020年に地理的表示 (GI) 保護制度に「福山のくわい」として登録され、高い品質から評価も高まっている。しかし、核家族化や多様な食文化へと変化するなか、おせち離れが進み需要は伸び悩んでいる。また、生産者数も高齢化や後継者不足により減少傾向にある。

そうした中、福山大学との産学連携により「掘り取り機」などの共同研究を進め、収穫作業の労力軽減を図り、生産拡大や就農しやすい環境づくりに向け取り組みを始めた。また、新しい需要の開拓として、クワイペーストを試作し、季節を問わず年間を通じた消費拡大に向け取り組みを始めた。



成果

- 実験圃場にて、クワイの収穫を福山大学の開発した掘り取り機により行った。(市販のトラクターを改造し、ポンプにより水を噴射しながら掘り起こし、クワイを回収する。)
- 規格外となるクワイのペースト化により、販売単価を押し上げ、産地の活性化とSDGsにもつながる取り組み趣旨を福山市・広島県洋菓子協会をはじめ多方面の方々に賛同いただき協力体制を築いた。広島県洋菓子協会に所属するパティスリー5社が、クワイのペーストを原料に使用した独自の「くわいケーキ」を試作を重ねながら作品を完成。クワイの目ならし会(初出荷の会)で、生産者および関係者に披露し、5社(5種類)の作品を試食した。

今後の展開

- 改良を重ねながら引き続き機械開発に取り組む。
- クワイをペースト加工すると、ケーキ食材として単価が高くなりすぎるため、単価を下げる施策と、広く一般の方へ知ってもらうための広報が課題であり、それらの問題の解消への取り組みを図る。

組合員等の評価

- 粘土質の泥等が絡み、まだ実際に使用できるレベルではないが、可能性を感じる。想定する作業ができれば、収穫作業の省力化が期待できるので、引き続き改良を重ね、実用レベルにしていきたい。
- 一般公開(商品化)はまだのため、広く一般の方の意見はないが、生産者、関係者からは、ケーキ自体はとてもおいしく、今後の可能性を大いに感じる取り組みであるという評価をもらっている。

農業生産の拡大等に向けたビジネスマッチング



農業者の様々な課題について、解決策等を共に模索し、その解決策を提案することで農業生産の拡大や農業所得増大に繋げることを目的に実施。

当会の金融仲介機能を発揮し、農業者の販路拡大ニーズに対する県内企業の紹介や、生産の効率化に資する農業用機械の導入提案を実施。具体的には、無償提供していた規格外農産物の新たな販路として卸売業者(買取先)を紹介したことや、農産物の販路拡大・ブランド化を図るため洋菓子製造会社を紹介した。また、省力化が期待できるドローンの導入に向け、農業法人と農機具販売会社を仲介し、実演会を実施した。



成果

農業者向けのビジネスマッチング件数

40件の提案を行い、**3件**の成立に至った。

今後の展開

- 農業者との対話を通じた課題のヒアリングおよび解決策の提案等に引き続き取り組む予定。

組合員等の評価

- 販路拡大につながる等、感謝の言葉をいただいた。

耕畜連携・資源循環ブランド「3-R」 ブランド展開拡大に向けた取り組み



耕畜連携・資源循環ブランド「3-R」は、畜産業で出た堆肥を「資源（肥料）（RESOURCE）」として「再利用（RECYCLING）」する資源循環・耕畜連携の取り組みを「繰り返し（REPEAT）」ていくことで、地域の環境保全と持続可能な農業を目指している。

生産者に3-Rを理解いただくことで、取り組み生産者が増加し、産直市等への出荷品目も増加している。

産直市をはじめ、3-Rに共感いただいた生協ひろしまの店舗へ3-Rコーナーを設置。

取り組み生産者や実需者と連携したキャンペーンや体験型のイベントなどを開催することで3-Rのブランドの展開拡大・ファン作りに取り組んでいる。

成果

3-Rコーナーを設置している店舗の実績

令和4年度（3月末実績）

3-R商品売上（税込） **1億4,800万円**
販売店舗 **12店舗**
取組生産者 **105名**

令和5年度（3月末見込）

3-R商品売上（税込） **2億4,000万円**
販売店舗 **14店舗**
取組生産者 **244名**



今後の展開

- 産直市・量販店などの3-Rコーナーや飲食店、宿泊施設における取り扱いおよび野菜、加工品等の販売商品を拡大。
- 3-Rを通じて5年後、10年後の地域の未来を考えてもらえるような交流イベントの実施。（ブランドのファン獲得に向けた取り組み）
- みどりの食料システム戦略に基づく環境に配慮した資源循環型農業の実現のため、特別栽培農産物の基準を満たした3-R上位ブランドの確立や、温室効果ガス削減効果の見える化商品の拡充を図る。

組合員等の評価

〈生産者〉耕畜連携を価値としているブランドに魅力を感じているため、3-Rとして出荷している。

〈消費者〉環境に配慮した商品を買って食べることが地球の環境保全につながるのであれば、積極的に購入したい。

「地域の活性化」 への取り組み

「地域の活性化」に向け、広島県農業の
応援団づくりに向けた食農教育、安心して
暮らせる豊かな地域社会の実現に向
けた地域との交流活動の取り組みを展
開しています。



クワイ栽培に関する出前授業(JA福山市)

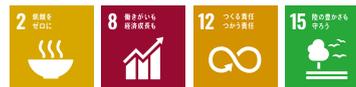


安佐南区海外援助米生産事業(JA広島市)



自転車交通安全教室(JA共済連広島)

安佐南区海外援助米生産事業



市民ボランティアと、安佐南区沼田町吉山の地元町内会や営農集団、JA広島市、行政、ライオンズクラブなどが協力して、食料不足の国へ送るための米づくりを行っている。市民に海外援助米生産のボランティア活動の場を提供し、市民の自発的な国際社会への貢献活動を支援するとともに、都市住民と農村住民の交流、都市と農村が共存する潤いのあるまちづくりを目的に行う。



成果 参加者314名(今年で25回目)

今後の展開

令和6年度も引き続き実施していく。



組合員等の評価

●泥の感触が初めは怖かったが、途中からは気持ち良くなった。ぜひ来年も参加したい。

地域を元気に! 「支店ふれあい委員会」の設置拡大



組合員をはじめとした地域住民のJA運営参画を一層促進させるため、全91支店への「支店ふれあい委員会」設置に向けて取り組んでいる。

各支店では地域のニーズに寄り添った企画の実施など組合員や地域住民との交流を深めている。

令和5年11月に委員会を設置した東城支店では、12月に東城資材店のスペースを使い「ふれあいカフェ」を開催した。

成果

今年度未設置支店22支店のうち8支店でふれあい委員会を立ち上げ、カフェスペースの設置など会議で出た意見により活動を実践できた。また、コロナ禍で活動が停滞していた既存の委員会設置支店でも活動を再開し、組合員・利用者との意見交換や活動を行うことで、地域の活性化に取り組むことができた。

今後の展開

来年度中には残りの14支店でもふれあい委員会を立ち上げ、憩いの場の提供など既存の設置支店での活動の共有を図り、アンケートの実施などにより意見や要望を聞き、組合員や地域住民との交流を深め、より身近に感じてもらえる支店づくりに取り組んでいく。



組合員等の評価

●「気軽に寄れる憩いの場となり、とても良い。」
●「同じ地域に住んでいても、普段はなかなか会えない人と、久しぶりに話ができてよかった。」と好評。

管内幼稚園・保育園・小学校の児童へ農業体験を実施



次世代への農業理解を深め広げる活動として、農業体験学習を通じて作物の成長を体験するとともに食の大切さを学習することを目的に JA 尾道市管内の幼稚園・保育園・小学校の児童へ食農教育活動やちゃぐりんフェスタを行った。



成果

令和4年度 9回開催 446名参加

令和5年度 14回開催 512名参加

今後の展開

地域と連携して、今後も食農教育に取り組みたい。



組合員等の評価

- 最初は、難しかったけど徐々に慣れてきて出来るようになったことが嬉しかった。
- 疲れたけど良い経験になった。大人になったら農業がしたい。

JA福山市あぐりスクールの開催による食農教育の実施



管内の小学生とその保護者を対象に、作物が成長する過程を継続的に体験することにより、農業の魅力や自然環境・食べ物大切さを伝えるとともに、JA ファンのすそ野を広げるため実施した。

管内小学生 20 名程度を定員とし、その保護者を含めた 40 名程度を対象とした。

年 5 回実施し、農業に関する講義、野菜の収穫、管内ぶどう産地の見学および収穫体験、地元農産物を使った料理教室を実施。



成果

参加者 小学生 21 名、保護者 17 名 計 38 名

- 管内特産品を中心にクイズ形式の講義で紹介し、地域農業への興味関心の向上を図った。
- 野菜・果物の収穫体験・自宅でのバケツ稲栽培を通し、農業の魅力に触れる機会を作った。
- 米の消費拡大につなげるため、新米を使ったおにぎり作りを行った。

今後の展開

食農教育の一環として、農業の魅力や自然環境・食べ物大切さを伝えるとともに、JAファンのすそ野を広げるため、引き続き取り組んでいきたい。



組合員等の評価

- 管内の特産品について理解が深まり、より身近に感じられるようになった。
- 野菜や果物の収穫体験は、とてもいい経験になり、思い出になった。

クワイ栽培に関する出前授業



管内の小学生を対象に、特産品の「クワイ」の栽培について出前授業を行い、発泡スチロールを使用したクワイ栽培実習を行うことで、地元農産物への関心を高め、農業の魅力を伝えるため実施した。

年2回開催し、クワイの植付け・収穫期に小学校を訪問し、講義と実習を行った。



成果

対象者 福山市立駅家北小学校 3年生：63名

- 講義では、クワイが福山市の特産品となるまでの歴史や栽培方法を説明し、実習では発泡スチロールにクワイの定植を行った。
- 収穫までは、小学校が栽培管理を行った。
- 収穫期に再度訪問し、収穫方法の説明や収穫実習を行った。

今後の展開

地域の伝統の野菜が大人になっても思い出せるよう、今後も引き続き取り組んでいきたい。

組合員等の評価

- 地元の特産品への理解や関心が高まった。
- クワイ栽培の難しさを実感した。

食農教育プロジェクト「起農みらい塾」



県内の小学校4～6年生を対象に、金融教育の要素を取り入れた食農教育を実施し、子供たちが食と農を学び、金融リテラシーも身に付けることでSDGs（目標4:質の高い教育をみんなに）に寄与する。また、本取組内容を広く情報発信することで、JAグループ広島の社会的評価の向上に繋げる。

学習塾運営会社、広告代理店と連携し、広島県内の小学生を対象に、農産物の生産・販売活動から収支まで体系的に学べるようカリキュラム化。中国放送（RCC）の密着取材、SNS等を通じて取組みを内外に広く発信。

成果

- カリキュラム終了後、塾生の保護者向けに「塾全体の満足感」「子供の変化」「JAグループに対する印象」についてアンケートを実施したところ、回答者全員から塾の取組みについて「非常に満足」と回答があった。
- 「JAグループに対する印象」については、「地域交流の場であることを実感し、子供の食育にも利用したい」「JAの市場に行こうと思う」「教育にも力を入れているところが良かった」といったコメントをいただき、JAグループのイメージアップに寄与することができた。
- 対外発信の結果、「起農みらい塾」HPへのアクセスは、令和5年6月～12月で計3,943回あり、特に25～44歳の年齢層のアクセス割合が61.4%と、若年層、子育て世代へのPR強化に繋がった。

数値実績 【塾生】令和5年度 20名（令和4年度 20名）：前年対比±0（定員20名）
【HPアクセス（表示回数）】令和5年度 3,943回（令和4年度 3,261回）：+682回

今後の展開

令和6年度も本プロジェクトを継続予定。



組合員等の評価

- 子供の変化については、「自分の考えを言えるようになった」「お金の価値観に変化があったようです」「自己決定する喜びを得られた様子でした」など子供の成長を実感するコメントが多数あった。

自転車交通安全教室



令和4年度の広島県の交通事故のうち約2割が自転車による事故であることから、通学時等、自転車の利用頻度が高い県内の中学生・高校生を対象に、広島県警察本部と連携し、交通事故の実演（スタントマン）により、交通事故の恐ろしさや安全な自転車利用の必要性を伝え、交通事故のない安全で安心して暮らせる地域づくりを目指し実施した。



成果

広島県内の4校で実施
(中学校・高校)

今後の展開

令和6年度も継続実施予定



組合員等の評価

- 事故の再現を目の当たりにし、気の緩みが事故に繋がることを再認識した。
- 自分が事故にあったり、加害者にならないよう、ルールを守ることを心がけようと思った。

広島子ども食堂支援



① 世羅大豊農園の梨の木オーナー制度を活用し、広島子ども食堂支援センター関係者 20 名と梨狩りおよび収穫した梨を県内の子ども食堂へ贈呈。

② 年末年始の牛乳消費拡大・応援のため、クリスマスプレゼントとして県内 13 か所の子ども食堂へ牛乳・プリンを贈呈。

牛乳・プリン購入費用として、すくすく夢フェスタなどの子ども・家族向けイベントの JA グループ広島企画ブース（お米のすくいどり）の参加料金 93,200 円全額を活用した。



成果

● 梨贈呈 250 個
● 県内 13 か所の子ども食堂へ牛乳・プリン 各 1,040 個

今後の展開

引き続き子ども食堂と連携し、食農教育および牛乳消費拡大に取り組む

組合員等の
評価

- ① 梨贈呈
誕生日が近い子がいてケーキも買ったのですが、ケーキより梨という子がほとんどでした。甘くてみずみずしい本当に美味しい世羅梨をありがとうございます。ひとり親家庭への食品支援として活用させていただきます。
- ② 牛乳・プリンプレゼント
クリスマス時期でプリンをアレンジし子どもたちに提供しました。子どもも大人もとても喜ばれ、楽しく過ごすことができました。

バケツ稲づくりを通じた食農教育 (第3回JAグループ広島バケツ稲づくりインスタグラムキャンペーン)



●第3回バケツ稲づくりキャンペーン

広島県内在住42名にバケツ稲セットを配付し、生育過程をインスタグラムに投稿。既定のハッシュタグを付けることで、参加者以外にも周知を図り、投稿キャンペーンと応援キャンペーンを実施。参加者の投稿に「いいね」をした方の中から合計10名に広島県産米をプレゼントした。

●TSS 満点ママとのコラボ

子育て世代の女性層に「食」・「農」を切り口とした情報発信として、「クボカナのenjoy! 田舎ぐらし」とコラボ企画を展開。生育アドバイザーとしてJA広島農青連が協力し、番組MC棚田徹さんと久保田夏菜さんにTSS屋上庭園で家庭菜園（「バケツ稲」と「野菜」）にチャレンジいただいた。



成果

●バケツ稲キャンペーン参加人数

令和4年度

令和5年度

40名 → 42名

●TSS 満点ママ

TSS 満点ママ内で、計8回コラボ企画を放送し、平均4.7%の視聴率を記録した。

今後の展開

- 農業を身近に感じるイベントを実施
- バケツ稲づくりキャンペーンは展開内容を見直しつつ、継続して実施

組合員等の評価

●バケツ稲づくりキャンペーン

バケツ稲を育てることにより、お米が簡単に育つものではない。実ってからは鳥や害虫対策をへてお米になっていく。そういう経験をして、普段食べているお米が、当たり前スーパーにあるものではないという素敵な経験をさせていただいた。

JA共済Presents すくすく夢フェスタ



広島市のNTTクレドホールで開催された子育て世代のファミリー向けイベント「JA 共済 Presents すくすく夢フェスタ」に出展し、「食と農に触れる」をキーワードに、加工品の販売およびワークショップを実施した。

ワークショップでは、主に小学校就学前の子供を対象に、米袋を使ったおもちゃ箱を作ったほか、牛乳パックをプランターに仕立て、野菜苗を植えた。

加工品販売では、JA 広島農青連とともに JA 広島県女性協の部員お手製のとまとジャムやゆずこしょう、焼肉のタレ、あげおかきのほか、はっさくゼリー・シャーベットなどを販売した。



成果

- ブースには約150組の親子が訪れ、JA 広島県女性協の活動や食・農の大切さを伝えられたイベントとなった。
- 普段手にすることが少ない米袋を使った工作をし、米について学び、考えてもらう機会となった。

今後の展開

今後もイベント等を通じて、食と農の大切さを伝えていく。

組合員等の評価

- 実際に土に触れることで、子供たちに農業を身近に感じてもらうことができた。

JA 別索引

JA・連合会	タイトル	テーマ	ページ
JA 広島市	資材高騰に伴う支援策の実施	農業者の所得増大	12
	主要品目野菜の売上増加	農業生産の拡大	18
	安佐南区海外援助米生産事業	地域の活性化	24
JA ひろしま	広域合併で地域枠を超えた出荷体制の構築	農業者の所得増大 農業生産の拡大 地域の活性化	12
	生産資材の価格低減「JA ひろしまオリジナルチップソー」で組合員へ還元	農業者の所得増大	13
	情勢つなぎ需要掘り起こす 市場内に事務所を開所	農業者の所得増大 農業生産の拡大	18
	地域を元気に！「支店ふれあい委員会」の設置拡大	地域の活性化	24
JA 広島ゆたか	生産基盤の維持・拡大	農業生産の拡大	19
	農作業支援への取り組み	農業生産の拡大	19
JA 尾道市	産直市「ええじゃん尾道」尾道店でええじゃんフェアを開催	農業者の所得増大 農業生産の拡大	13
	管内町内会等ヘイノシシ捕獲器の寄贈	農業生産の拡大	20
	管内幼稚園・保育園・小学校の児童へ農業体験を実施	地域の活性化	25
JA 福山市	FUKUYAMA ふくふく市・ふれあい市による産直強化 農畜産物の販売チャネル拡大	農業者の所得増大	14
	農業塾の開催による様々な担い手の育成支援	農業生産の拡大	20
	福山大学との共同研究によるクワイ掘り取り機の開発とクワイ6次産品化の新たなメニューとして「くわいケーキ」の開発	農業者の所得増大 農業生産の拡大 地域の活性化	21
	JA 福山市あぐりスクールの開催による食農教育の実施	地域の活性化	25
	クワイ栽培に関する出前授業	地域の活性化	26
JA 広島信連	担い手コンサルティング実施	農業者の所得増大 農業生産の拡大	14
	農業補助金セミナー	農業者の所得増大	15
	農業生産の拡大等に向けたビジネスマッチング	農業者の所得増大 農業生産の拡大	21
	食農教育プロジェクト「起農みらい塾」	地域の活性化	26
JA 全農ひろしま	耕畜連携・資源循環ブランド「3-R」ブランド展開拡大に向けた取り組み	農業者の所得増大 農業生産の拡大 地域の活性化	22
JA 共済連広島	自転車交通安全教室	地域の活性化	27
JA 広島中央会	農業経営者セミナー	農業者の所得増大 農業生産の拡大	15
	広島子ども食堂支援	地域の活性化	27
	バケツ稲づくりを通じた食農教育 (第3回 JA グループ広島バケツ稲づくりInstagramキャンペーン)	地域の活性化	28
	JA 共済 Presents すくすく夢フェスタ	農業者の所得増大 地域の活性化	28

JAグループ広島の取り組み

タイトル	ページ
組合員との対話運動を通じた不断の自己改革の実践	3
県内 JA の自己改革の実践状況 (～自己改革工程表より～)	3
持続可能な食料・農業生産の確立	4
広島県農業の次世代の担い手確保と、農業従事を継続できる環境づくり	4
持続可能な農業の実現	5
持続可能な地域・組織・事業基盤の確立	6
組合員アンケートの実施と研修会	6
支店協同活動コンクール	6
女性運営参画促進に向けた取り組み (女性役員研修会、理事研修会)	7
女性組織間での連携強化	7
地域共生社会づくりに向けた県内の協同組合の連携	7
「食」「農」「地域」「JA」にかかる県民理解の醸成	8
「G7 広島サミット」を契機とした広島県産農畜産物の消費拡大・理解促進に向けた広報活動	8
「国消国産」の日を基点とした国消国産月間 (10・11月) に行動変容を促す取り組みを重点的に展開	8



JAグループ広島は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



耕そう、大地と地域の未来。